

第 10 回圧力設備規格審議委員会 議事録(案)

1 日 時: 平成 21 年 12 月 16 日 (水) 13:30~17:00

2 場 所: 溶接学会会議室

3 出席者: (敬称略)

委 員: 酒井委員長(TEC), 佐藤副委員長(日揮), 青木(東電), 阿部(NIMS),
石毛(IHI), 緒方(電中研), 石丸(住友ケミカ), 能登(千代田), 鈴木(KHK),
上野(ガス協会), 田原(石連), 樋口(IHI テクノ), 寺田(神戸製鋼),
吉田(三井造船)

原案作成者: 酒井(東大), 政友(住化)

事 務 局: 河野, 田中(HPI)

以上 18 名(委員数 14 名)

4 資料番号: 圧力設備規格審議 -10

- 1 第 9 回圧力設備規格審議委員会 議事録案
- 2-1 圧力設備規格審議委員会 書面投票結果 (HPIS Z106:2009)
- 2-2 委員のコメント又は意見, 対応策及び対応策に対する意見表
- 3 HPIS Z107-1 TR: 2009
- 4 HPIS Z107-3 TR: 2009
- 5 HPIS 規格一覧表
- 6 平成 22 年度 J I S 原案作成公募制度 応募用紙

5 議事

酒井委員長の司会のもと, 出席委員数が委員会成立の定足数を満たしていることが確認され, 以下の議事が進められた。

5.1 前回議事録の確認

資料 9-1 により, 前回議事録案が読み上げられ, 一部修訂の上, 挙手により全員一致で承認された。修訂点は次の通りとする。 5.2.2 項の問文中の下線部, “・・・Z106 をパブコメした場合, Z107TR についてもパブコメに出すことになるか。” 5.2.3 項文中の下線部, “・・・促進されており, 国内でも設備が劣化している。・・・”

5.2 HPIS Z106:2009 「リスク・マネジメント」書面投票結果について

資料 2-1 によって事務局から HPIS Z106:2009 に対する書面投票結果について報告があった。投票総数は 24 票で書面投票は成立し, 賛成投票数 24 票(内コメント付き賛成 5 票)で可決の決議となったしかし, コメント付き賛成のコメントの内容から, かなりの編集上の変更が必要と判断され, RBM 委員会で再検討することになった。変更案を次回委員会にて再度審議することになった。

5.3 HPIS Z107-1TR:2009「リスク・メンテナンスハンドブック 第1部：一般事項」制定案について

5.3.1 制定案内容説明及び審議

政友 RBM 委員会委員より、Z107-1TR についての説明がなされた。

- a) 解説の中の名簿については、現在、異動された方も作成に携わっていたので掲載した。
- b) 前回、規格番号から TR を外してはとの意見があり、RBM 委員会 WG2 で検討した。その結果、Z107 は Z106 の取扱いに関するものである、世界の RBM の流れ、考え方を解説したものである、との理由から TR のままとすることになった。

その後、質疑応答がなされ、以下の主な内容を見直すことになった。

- a) 用語、語彙等の使い方と整合、書き方、図表にタイトルを付記等、全体について見直す。
- b) 専門用語が、日本語だけのもの、英語だけのもの、日本語と英語の併記のものが混在している。原則として、日本語で記述する。表中も同様とする。API を引用しているため、日本語のないものもあるが、適当な訳語を検討する。また、用語の日英対照表を作成することを検討する。
- c) 転載許可されたものについては、用語等は変更できないが、出来るだけ整合化を図る。
- d) P 2、4.1 項の記載内容に関して、欧米の主な参考文献を RBM の適用事例として記載することを検討する。
- e) P 7、4.3.3 項の“この規格の編集委員”は見直す。また、“資格を有するものでなければならぬ”は、“資格を有するものが望ましい”等の表現にする。
- f) API を引用している関係で、直訳の言い回しがある。出来るだけ日本語らしい表現にする。
- g) P 27、官庁検査の“官庁”は別の表現にする。
- h) P 28、注記 2 の記述を見直す。
- i) P 88、表中の“応力腐食割れ”は、単に“割れ”とする。
- j) P 1、引用規格は HPIS だけでない。見直す。

5.3.2 書面投票について

上記見直しを含めて、各委員により 1 週間程度で再度内容をチェックし、コメントがあれば事務局に提出し、年明け早々に修正した内容を書面投票に諮ることについて、挙手による採決が行われ、全員の賛成が得られた。なお、スケジュールについては、委員長と事務局で調整することで了承された。

5.4 HPIS Z107-3TR:2009「リスク・メンテナンスハンドブック 第3部：応力腐食割れの損傷係数」制定案について

5.4.1 制定案内容説明及び審議

政友 RBM 委員会委員より、Z107-3TR について全般の説明がなされた。その後、質疑応答がなされ、Z107-1 と同様に、全般に亘って見直すこととなった。なお、以下のコメントがあった。

- a) 腐食の専門家からのコメントが出ているので、その内容を別途事務局経由で送る。
- b) この規格のベースが API581 であれば、解説に記載する。
- c) 材料名には JIS No. を付けることを検討する。

6 HPISの見直しについて

事務局より資料 10-5 に基づいて説明され、以下のように取扱うことで了承された。なお、既に見直しに入っている規格についても報告された。

- a) 見直しの期限を過ぎている、或いは期限が迫っている HPIS については、事務局が「審議委員会」として選定した HPI 内の委員会へ見直しの要請をする。見直しの順位は審議委員会に一任する。
- b) 日本溶接協会規格の WES としても登録されている HPIS については、廃止する。廃止に当たっては、日本溶接協会に連絡する。
- c) C103-1989「超高压円筒容器の設計指針」は、C108[高压容器規格]と大部分、重複しているので規格としては廃止する。但し、解説書として有用なので技術指針（TR）として残す。

7 JIS B8226「破裂板式安全装置」改正原案作成に関する報告

事務局より上記規格改正に関する作業進捗状況について報告された。

今年、準備部会が設けられ、4 回の検討会が行われた。日本規格協会の平成 22 年度 JIS 原案作成公募制度を利用し、10 月 30 日付で応募した内容を配布資料にもとづいて説明された。今後のスケジュールとして、年明けに経産省のヒアリングを受け、4 月より委員会を設置し約 1 年間で原案を作成する予定である。

8 次回委員会予定について

事務局にて、平成 22 年 2 月で調整することになった。

以上